

実務経験のある教員等における科目の一覧表(看護学科)

科目名	単位(時間数)		科目名	単位(時間数)	
	1	30		1	30
基礎看護技術Ⅲ	1	30	母性援助論Ⅱ	1	30
成人援助論Ⅱ	1	30	母性援助論Ⅲ	1	15
成人援助論Ⅴ	1	30	精神援助論Ⅲ	1	15
老年援助論Ⅰ	1	30	臨床看護の実践	1	30
小児援助論Ⅱ	1	30			
計				9	240

【実務経験の活用】

看護師として5年以上の臨床経験を活かし、上記授業において、理論と実践の整合性を取り、各科目において看護学の専門性を深める教育を行う。

分野（ 専門分野Ⅰ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
基礎看護技術Ⅲ	2年次 前期	1単位 30時間	中安 ゆかり
実務経験のある教員 等による授業科目	訪問看護ステーションにて7年間看護師業務に従事。 実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：看護の概念を学び人間の理解、看護師の役割を認識し、看護実践のための基礎能力を養う 目標：1.看護を科学的にとらえ、看護を展開するために必要な基礎的な方法が習得できる。 2.看護における教育的活動の意義と指導技術を習得できる。		
授業概要	事例を通して、科学的思考、問題解決思考に基づき、対象にとっての必要な援助を提供するための一連のプロセスについて学ぶ。また、看護過程の展開には、クリティカルシンキングが必要であり、授業を通し自己のクリティカルシンキング能力を養う。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	看護過程とは、看護過程の考え方	講義
	2回	事例紹介・情報の書き方・情報収集とアセスメント①	講義・GW
	3回	情報収集とアセスメント②	演習・GW
	4回	情報収集とアセスメント③	演習・GW
	5回	情報収集とアセスメント④	演習・GW
	6回	関連図・看護問題の抽出	講義・GW
	7回	関連図、看護問題の抽出	発表・GW
	8回	看護問題の優先度の決定・看護目標、具体策①	講義、GW
	9回	看護目標、具体策②	発表、講義
	10回	患者に必要な援助を考えよう！！（1日の行動計画）	演習・GW
	11回	援助を実施してみよう！！	演習・GW
	12回	援助を評価してみよう！！	演習・GW
	13回	看護における教育指導①	講義・GW
	14回	看護における教育指導②	GW, 発表
15回	何でも質問コーナー	講義	
使用テキスト	18巻 看護学概論 デジタルナーシンググラフィカ 19巻 基礎看護技術Ⅰ デジタルナーシンググラフィカ		
参考書	看護の基本となるもの ヴァージニアヘンダーソン 日本看護協会出版会		
評価方法	最終提出物 70%・中間提出物 20%・グループワークの参加状況 10%		
その他			

分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅱ	2年次 後期	1単位 30時間	黒川 由美子
実務経験のある教員 等による授業科目	大学病院にて6年間、主に急性期病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。		
科目目的・目標	目的：回復期にある成人の健康問題と生活の特性を理解し、障がいを持つ患者への療養生活支援についての知識と技術を修得する。 目標：1. 機能障がいをもつ人が社会復帰に向けて自立するための看護を理解する 2. 機能障がいによって生活調整を必要とする人への看護の方法を理解する		
授 業 概 要	予期せぬ状況下での突然の発症により、何らかの障がいが予想される状態にあり、リハビリテーションを必要とする患者と家族を理解する。また、障がいに伴うボディイメージの変容への支援を学ぶ。そして、疾病や機能障がいに応じた、その人らしい生活の再構築を支援する看護を学ぶ。		
授 業 計 画	回	内 容	授業形態
	1回	リハビリテーション（回復期）の概念	講義
	2回	回復期にある患者とその看護 セルフケア支援とは	講義
	3回	運動機能障がいのある患者の看護①	講義
	4回	運動機能障がいのある患者の看護②	講義
	5回	乳房切除術を受ける患者の看護①	講義
	6回	乳房切除術を受ける患者の看護②	講義
	7回	ストーマ造設する患者の看護①	講義・演習
	8回	ストーマ造設する患者の看護②	講義
	9回	視覚障がいのある患者の看護①	講義
	10回	視覚障がいのある患者の看護②	講義
	11回	脳血管障がいのある患者の看護①	講義
	12回	脳血管障がいのある患者の看護②	講義
	13回	脳血管障がいのある患者の看護③	講義
	14回	脳血管障がいのある患者の看護④	講義
15回	終講試験・まとめ		
使用テキスト	26巻 生命危機状況/セルフケアの再獲得 デジタルナーシンググラフィカ 10巻 脳・神経機能障害/感覚機能障害 デジタルナーシンググラフィカ 11巻 運動機能障害 デジタルナーシンググラフィカ 12巻 内部環境調整機能障害/性・生殖機能障害 デジタルナーシンググラフィカ EX3巻 消化器 デジタルナーシンググラフィカ EX6巻 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 デジタルナーシンググラフィカ EX7巻 運動器 デジタルナーシンググラフィカ		
参 考 書			
評 価 方 法	出席状況 ・ 課題 ・ 終講試験		
そ の 他			

分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅴ	2年 後期	1単位 30時間	森谷 友美
実務経験のある教員 等による授業科目	6年間、主に消化器外科病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。		
科目目的・目標	目的：成人期・周手術期の特徴を踏まえ、健康段階に応じた看護過程の展開ができる。 目標：1. 成人期の特徴を踏まえた看護過程を展開できる。 2. 疾病の特徴と周手術期の経過に応じた看護過程を習得できる。		
授業概要	大腸癌で低位前方術を行う患者の事例から、看護過程を展開する。疾病・手術療法・周手術期の経過の理解のもとに、急性期にある患者のセルフケアを支えるための具体的な看護について事例を用いて展開する。グループワーク（GW）を通してメンバー同士協力して意見交換を行い、関連図・計画立案を行う。講義を通し、患者やその家族の健康問題を総合的に考え、看護師として専門的援助を行うために、個別性についてじっくり考察することの必要性を学ぶ。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	看護過程の構成要素の復習 患者の病態を踏まえた情報収集整理	講義・個人ワーク
	2回	術前情報の整理・解釈・分析・統合①	講義・個人ワーク
	3回	術前情報の整理・解釈・分析・統合②	GW
	4回	術前アセスメントの発表	GW・発表
	5回	術前関連図作成	講義・GW
	6回	関連図発表・看護上の問題点および優先 順位の選定	GW・発表
	7回	術前看護計画立案	講義・個人ワーク
	8回	術前看護計画評価	講義・個人ワーク
	9回	術中・術直後・術後5日目の情報整理・分 析・解釈・統合①	講義・
	10回	術中・術直後・術後5日目の情報整理・分 析・解釈・統合②	講義・
	11回	術後関連図作成	講義・GW
	12回	術後看護計画立案	講義・個人ワーク
	13回	術後看護計画立案	講義・個人ワーク
	14回	成人 周手術期 看護過程のまとめ	講義
15回	終講試験	試験	
使用テキスト	28巻 周手術期看護 デジタルナーシンググラフィカ 8巻 栄養代謝機能障害 デジタルナーシンググラフィカ EX3巻 消化器 デジタルナーシンググラフィカ		
参 考 書	講義にて紹介		
評 価 方 法	記録物・グループワークを行う場合は、その参加状況も評価を行う。		
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習は精力的に取り組むこと。</li> <li>・提出物、時間厳守</li> <li>・GWでは、メンバー間で積極的な意見交換と協力を期待する。</li> </ul>		

分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
老年援助論 I	2年次 前期	1単位 (30時間)	山田 良子
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて12年間、主に高齢者の看護師業務に従事。実務経験を活かし、高齢者と家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：老年期の日常生活機能を整える看護活動が理解できる。 目標：1.高齢者に起こってくる身体的・精神的・社会的変化とその特徴をとらえ高齢者の日常生活にもたらす影響についてアセスメントができる。 2.加齢に伴う変化の日常生活への影響をふまえ高齢者の健康を維持・増進するための援助を理解できる。		
授業概要	老年期にある対象者の特徴をふまえ、加齢によっておこる高齢者の特徴を理解し、機能障害を持ちながら生活する高齢者への看護方法を学ぶ。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	高齢者のヘルスアセスメント	講義
	2回	高齢者疑似体験	演習・GW
	3回	高齢者への生活援助のあり方について	GW
	4回	高齢者への生活援助のあり方について（発表）	GW・講義
	5回	高齢者の転倒転落 転倒リスクのアセスメントと看護	講義
	6回	高齢者の廃用症候群を予防する看護	講義
	7回	高齢者の栄養状態を保つ看護	講義
	8回	高齢者の食生活への看護	講義
	9回	高齢者の排泄障害への看護	講義
	10回	高齢者の清潔と整容に対する看護	講義
	11回	高齢者に対する排泄の援助（おむつ交換）	演習（実習室）
	12回	高齢者の生活リズムを整える看護	講義
	13回	高齢者とのコミュニケーション	講義・演習
	14回	高齢者のセクシュアリティ	講義・演習
15回	終講試験・まとめ	試験	
使用テキスト	31巻 高齢者の健康と障害 デジタルナーシンググラフィカ 32巻 高齢者看護の実践 デジタルナーシンググラフィカ		
参考書			
評価方法	終講試験 80%・レポート 20%		
その他			

分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
小児援助論Ⅱ	2年次 後期	1単位	大出幸子
実務経験のある教員等による授業科目	小児病棟にて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患児とその家族を理解し、対象に寄り添い、小児看護の機能と役割を理解し看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	<p>目的：健康障害や健康問題を持つ子どもとその家族を理解し、子どもの成長発達段階や健康状態、子どもと家族が置かれている様々な状況に合わせた援助を実践するために、親子の療養行動やセルフケア能力を促進する援助について学習する。</p> <p>目標：病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児期に特有の健康障害を病期別に捉え、各病期にある子どもと家族への看護の特徴を理解する。</li> </ul>		
授業概要	健康を障害されることが、子ども・家族にとってどのような意味があるのか、子どもと家族の体験について学び、子どもと家族を一つの単位として捉えることにより、健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、援助方法について、小児看護を創造することができる。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	慢性的な疾患・障害がある子どもと家族の看護（食物アレルギー）	講義
	2回	急性期にある子どもと家族の看護（ファロー四徴症）	講義
	3回	慢性期にある子どもと家族の看護（ネフローゼ症候群）	講義
	4回	慢性期な疾患にある子どもと家族の看護（てんかん）	講義
	5回	痛みのある子どもと家族の看護（白血病）	講義
	6回	慢性的な疾患にある子どもと家族の看護（Ⅰ型糖尿病）	講義
	7回	慢性的な疾患にある子どもと家族の看護（小児がん）	講義
	8回	ハイリスク新生児と家族の看護（低出生体重時）	講義
	9回	先天性疾患をもつ子どもと家族の看護（ダウン症候群）	講義
	10回	発達に問題がある子どもと家族の看護（重症心身障害児）	講義
	11回	呼吸器に疾患を持つ子どもと家族の看護（喘息）	講義
	12回	後天的な疾患を持つ子どもと家族の看護（川崎病）	講義
	13回	子どもに多い感染症と看護	講義
	14回	予防接種	講義
15回	単位認定試験・まとめ		
使用テキスト	<p>33巻 小児の発達と看護 デジタルナーシンググラフィカ</p> <p>34巻 小児看護技術 デジタルナーシンググラフィカ</p> <p>35巻 小児の疾患と看護 デジタルナーシンググラフィカ</p>		
参考書	子どもの病気の地図帳 講談社		
評価方法	課題提出・単位認定試験		
その他	講義内容によりDVDを視聴し学習する		

分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
母性援助論Ⅱ	2年次 後期	1単位 (30時間)	中里 まゆみ 加藤 てるみ
実務経験のある教員等 による授業科目	中里：助産師として病院に18年間従事。実務経験を活かし、母性看護の対象を理解し、対象を多角的な視点で捉える能力を養う授業を行う。 加藤：助産師として約3年間、看護師として約10年間従事。実務経験を活かし、母性看護の対象を理解し、対象を多角的な視点で捉える能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：妊娠・分娩・産褥・新生児期における対象の身体的・心理社会的異常、もしくは異常の予測がある場合について理解し、母児及び家族へのケアについて学ぶ。 目標：ハイリスクな状況にある母子への看護が理解でき、必要な看護技術を習得できる。		
授業概要	母性援助論Ⅰで学習した正常な経過を基に、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常な経過と看護について学習する。妊婦、産婦、褥婦、新生児に必要な観察技術と援助技術について習得する。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	ハイリスク妊娠とは、妊娠期の感染症	講義
	2回	妊娠疾患、持続期間の異常	講義
	3回	ハイリスク妊婦の看護	講義
	4回	産道・娩出力・胎児の異常	講義
	5回	分娩時の損傷、出血、産科処置・手術	講義
	6回	帝王切開、急速分娩、異常経過時の看護	講義
	7回	子宮復古不全、産褥期の発熱	講義
	8回	異常のある褥婦の看護	講義
	9回	新生児仮死、分娩外傷	講義
	10回	低出生体重児、高ビリルビン血症	講義
	11回	新生児の看護技術：観察法	演習
	12回	新生児の看護技術：沐浴	演習
	13回	妊産婦の看護技術：観察法	演習
	14回	母性看護学実習の実際	演習
15回	終講試験、まとめ		
使用テキスト	37巻 母性看護の実践 デジタルナーシンググラフィカ 38巻 母性看護技術 デジタルナーシンググラフィカ		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器 ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院		
評価方法	終講試験 90%・課題レポート 10%		
その他	講義資料の整理は怠らないこと。		

分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
母性援助論Ⅲ	2年次 後期	1単位 15時間	城所 木綿子
実務経験のある教員等 による授業科目	助産師として7年間従事。実務経験を活かし、母性看護の対象を理解し、対象を多角的な視点で捉える能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：母性各期における対象を総合的に理解し、その対象がもつ健康課題と看護を学ぶ 目標：母性看護の実践に必要な看護過程が理解できる		
授業概要	主に正常な経過をたどる妊婦、褥婦、新生児の看護過程を展開する。ウェルネス看護診断を用いて、対象者を捉えていく。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	ウェルネス看護診断、アセスメントガイド、事例紹介	講義
	2回	妊娠期の情報整理、アセスメント、マタニティ診断	講義
	3回	分娩期の情報整理	講義
	4回	褥婦、新生児の情報整理	講義
	5回	褥婦、新生児のアセスメント、マタニティ診断	講義
	6回	褥婦、新生児の看護目標、計画立案、	講義
	7回	褥婦、新生児の行動計画、評価の視点	講義
	8回	終講試験	試験
使用テキスト	37巻 母性看護の実践 デジタルナーシンググラフィカ 38巻 母性看護技術 デジタルナーシンググラフィカ		
参考書	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版 ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 医学書院 新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ、母性Ⅱ 中央法規		
評価方法	課題レポート 80%、事前学習・技術シート 20%		
その他	課題レポートは、随時進捗状況確認のため提出あり、計画的に進めること。		



分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
精神援助論Ⅲ	2年次 後期	1単位 (15時間)	竹島 裕子
実務経験のある教員等 による授業科目	精神科病院にて10年間看護師業務に従事。精神に障がいのある対象とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：精神の健康に影響を及ぼす要因を理解し、精神の健康を維持・増進するための援助、精神に障がいをもつ対象への看護・支援の方法を学ぶ。 目標：精神障がいによる健康や生活への影響や問題を考え、社会資源の活用や対象の持てる力をいかした支援について考える。		
授業概要	オレム・アンダーウッドモデルを使用し、統合失調症の事例を通して看護過程を計画立案まで展開する。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	オレム・アンダーウッドモデル 実習記録用紙提示 事例提示	講義
	2回	看護過程の展開1 情報分類・分析（用紙1－②） 「全体像」と発達課題	講義 演習
	3回	看護過程の展開2 「6つのセルフケア要件」情報分類・分析①（用紙2－①②）	講義 演習
	4回	看護過程の展開3 「6つのセルフケア要件」情報分類・分析②（用紙2－①②）	講義 演習
	5回	看護過程の展開4 関連図と問題点確認 「関連図」	講義 演習
	6回	看護過程の展開5 関連図と問題点確認 「(長期・短期)目標」、看護計画「具体策」(共通)立案	講義 演習
	7回	看護過程の展開6 実施、評価の書き方	講義 演習
	8回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	39巻 情緒発達と精神看護の基本 デジタルナーシンググラフィカ 40巻 精神障害と看護の実践 デジタルナーシンググラフィカ		
参考書	その都度提示します。		
評価方法	試験40% 記録60%		
その他	オレム・アンダーウッドモデルについて、自己学習もして下さい。 個人ワークになりますので、理解を深めながら学習していきましょう。		

分野（ 統合分野 ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
臨床看護の実践	3年次 前期	1単位 (30時間)	中安ゆかり 山田良子
実務経験のある教員 等による授業科目	<p>中安：訪問看護ステーションにて7年間看護師業務に従事。 実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。</p> <p>山田：病院にて12年間、主に高齢者の看護師業務に従事。実務経験を活かし、高齢者と家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。</p>		
科目目的 目標	<p>目的：臨床に近い状況下の援助を通して、総合的な判断や対応する力を習得する。</p> <p>目標：1. 主要症状のある患者に安全な援助を行うための判断力を高めることができる。 2. 看護技術を組み合わせ、複数の患者の状態や状況にあった援助ができる。 3. 診療に伴う援助における危険要素を知り、事故防止のための知識・技術が理解できる。</p>		
授業 概要	<p>チーム医療、他職種との協働、メンバーシップ・リーダーシップ及び、医療安全の基礎的知識を活用しながら看護をマネジメントし、看護実践を統合する。卒業後の看護業務遂行能力をイメージする。</p>		
授業 計画	回	内 容	授業形態
	1回	看護チーム演習（事例提示、援助計画立案）	GW
	2回	看護チーム演習（援助計画立案）	GW
	3回	看護チーム演習（援助計画のグループ発表）	GW
	4回	看護チーム演習（援助計画についての振り返り）	GW
	5回	看護チーム演習（追加事例あり）	GW
	6回	看護チーム演習（援助計画に沿った演習）	GW・演習
	7回	看護チーム演習（援助計画に沿った演習）	GW・演習
	8回	看護実践演習	GW・演習
	9回	看護実践演習	GW・演習
	10回	看護実践演習 振り返り	GW
	11回	看護実践演習	GW・演習
	12回	看護実践演習	GW・演習
	13回	看護実践演習 振り返り	GW
	14回	臨床看護師に必要な力とは	GW
15回	臨床看護師に必要な力とは 発表	GW	
使用テキスト	各科目教科書、看護技術教科書		
参考書	各領域、看護技術の教科書		
評価方法	7回目終了後 演習評価・グループワーク評価 15回目終了後 演習評価・グループワーク評価		
その他	演習ではユニフォームとナースシューズを忘れないこと。 事例患者での演習では、事前に十分な学習を行うこと。		

・実務経験のある教員の授業科目の一覧表（臨床検査学科）（省令で定める単位数等の基準数相当分）

講義要項(2) ページ数	科目名	単位数	時間数	担当教員名	実務経験内容・それに基づく授業内容
P. 12	血液検査学Ⅰ(実習)	1	45	伊藤 恵子	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。
P. 14	血液検査学Ⅱ(実習)	1	45	伊藤 恵子	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。
P. 21	臨床一般検査学	1	30	飯塚 桂子	病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。一般検査と臨床との関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。
P. 37	輸血・移植検査学Ⅰ(実習)	1	45	徳大路 洋史	病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。
P. 39	輸血・移植検査学Ⅱ(実習)	1	45	徳大路 洋史	病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。
P. 44	微生物検査学Ⅱ(実習)	1	45	高橋 俊	病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床の関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。
計		6	255		

【実務経験の活用】

臨床検査学科では、臨床検査技師として5年以上の臨床経験を持つ教員の経験を活かし、理論と実践の整合性を取りその専門性を深めるための教育を行っています。

# 血液検査学 I (実習)

科目担当者名 伊藤 恵子・石田 沙妃  
 科目概要 2年・前期 (1単位・45時間・必修)  
 授業形態 実習 100%  
 実務経験 実務経験あり  
 (病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。)  
 教科書 血液検査学 (医歯薬出版)  
 参考文献・資料 血液細胞アトラス (文光堂)

教育目的 概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身に付け、結果を導き出せること。
学習目標 (到達目標)	実習した結果についての考察ができ、さらに、臨床的意義についても、説明できる。

回	項目	授業内容	担当・備考
1 2	形態学1	血液検査実習の心得・血液薄層塗抹標本作成・	伊藤・石田
3 4	形態学2	普通染色・白血球分画・スケッチ	伊藤・石田
5 6	形態学3	血球成熟課程小テスト・講義 (正常Mark)	伊藤・石田
7 8	形態学4	正常Mark形態観察 スケッチ	伊藤・石田
9 10	形態学5	Mark形態観察 スケッチ	伊藤・石田
11 12	形態学6	異常血球形態観察 スケッチ	伊藤・石田
13 14	形態学7	特殊染色：好中球アルカリフォスファターゼ染色	伊藤・石田
15 16	形態学8	特殊染色：ペルオキシダーゼ染色	伊藤・石田
17 18	形態学9	特殊染色：エステラーゼ染色	伊藤・石田
19 20	実技試験		伊藤・石田
21	終講試験		伊藤
22 23	静脈採血	試験解説・静脈採血	伊藤・石田

評価基準	終講試験 50% 実技試験 30% レポート 20% 課題評価：レポート内容で評価を行う
授業外の 学習方法	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作成の時間としてください。
その他	

## 血液検査学Ⅱ(実習)

科目担当者名	伊藤 恵子・石田 沙妃
科目概要	2年・後期(1単位・45時間・必修)
授業形態	実習 100%
実務経験	実務経験あり (病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。)
教科書	血液検査学(医歯薬出版)
参考文献・資料	血液細胞アトラス(文光堂)

教育目的概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身に付け、結果を導き出せること。
学習目標(到達目標)	実習した結果についての考察ができ、さらに、臨床的意義についても、説明できる。

1 2	血球数算定	真空採血・自動血球算定機器の操作	伊藤・石田
3 4	赤血球に関する検査	赤血球数・Ht値	伊藤・石田
5 6	赤血球に関する検査、白血球数算定	ヘモグロビン濃度・赤血球指数計算・白血球数	伊藤・石田
7 8	好酸球数算定・網赤血球数	好酸球数・網赤血球数	伊藤・石田
9 10	赤血球沈降速度	赤血球沈降速度・講義	伊藤・石田
11 12	血小板の検査1	出血時間・毛細血管抵抗試験	伊藤・石田
13 14	血小板の検査2	血小板数血小板粘着能・凝集能	伊藤・石田
15 16	凝固系の検査1	血液凝固時間・APTT	伊藤・石田
17 18	凝固系の検査2	PT	伊藤・石田
19 20	実技試験		伊藤・石田
21	終講試験		伊藤
22 23	血球形態観察	正常Mark・異常血球形態と内容異常	伊藤・石田

評価基準	終講試験 50% 実技試験 30% レポート 20% 課題評価：レポート内容で評価を行う
授業外の学習方法	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作成の時間としてしてください。
その他	

# 臨床一般検査学

科目担当者名 飯塚 桂子  
 科目概要 3年・後期（1単位・30時間・必修）  
 授業形態 講義 50% ・ 演習 50%  
 実務経験 実務経験あり  
 （病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。一般検査と臨床との関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。）  
 教科書 最新臨床検査講座 一般検査学(医歯薬出版)  
 参考文献・資料

教育目的概要	一般検査の基礎を理解し、国家試験問題に確実に対応できること、また卒業後の実務に生かせることを目標とする。
学習目標 (到達目標)	一般検査室で行われている検査項目とその臨床的意義・検査方法が説明できる。 国家試験過去問題・模擬試験で出題される問題に解答できる。

回	項目	授業内容	担当・備考
1	一般検査	基礎的事項の復習（尿検査）	飯塚
2	一般検査	基礎的事項の復習（髄液検査）	飯塚
3	一般検査	基礎的事項の復習（穿刺液検査）	飯塚
4	一般検査	確認試験（検査総論含）	飯塚
5	一般検査	確認試験（検査総論含）	飯塚
6	一般検査	尿沈渣検査①	飯塚
7	一般検査	尿沈渣検査②	飯塚
8	一般検査	基礎的事項の復習（その他の項目）	飯塚
9	一般検査	総合問題①	飯塚
10	一般検査	総合問題②	飯塚
11	一般検査	国試対策問題①	飯塚
12	一般検査	国試対策問題②	飯塚
13	一般検査	スライドテスト	飯塚
14	一般検査	スライドテスト	飯塚
15	終講試験		飯塚

評価基準	終講試験 100%
授業外の学習方法	授業内でできなかった課題について補うこと。理解して覚えること。繰り返し知識を定着し国家試験対策をする。
その他	

## 輸血・移植検査学 I (実習)

科目担当者名	徳大路 洋史・高橋 俊
科目概要	2年・前期 (1単位・45時間・必修)
授業形態	講義 10% ・ 実習 90%
実務経験	実務経験あり (病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。)
教科書	最新臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)・輸血・移植検査技術教本(丸善出版)
参考文献・資料	

教育目的概要	免疫検査法の原理を理解し、それぞれの検査法の特徴や臨床的意義を学び、免疫疾患への応用範囲についての知識を習得する。
学習目標(到達目標)	抗原抗体反応を利用したいろいろな免疫検査法を理解し、それぞれの測定原理や特徴および検査法がもつそれぞれの測定意義や免疫疾患を説明できる。

回	項目	授業内容	担当・備考
1 2	輸血・移植検査の基本技術	実験器具の取り扱い方、試薬作製	徳大路
3 4	輸血・移植検査の基本技術	採血、赤血球浮遊液の正確な調整法 血清希釈法、赤血球凝集反応	徳大路
5 6	凝集反応	赤血球凝集反応： 寒冷凝集反応	徳大路
7 8	凝集反応	梅毒血清反応： PRPカードテスト、TPPA法	徳大路
9 10	沈降反応	ゲル内沈降反応： オクタロニー法	徳大路
11 12	蛍光抗体法 自己抗体検査	抗核抗体検査： 蛍光顕微鏡での観察	徳大路
13 14	感染症の抗原抗体検査	受身赤血球凝集反応： HBs 抗原 / HBs 抗体検査 または、固相酵素免疫測定法 (ELISA) : HBs 抗体検査	徳大路
15 16	電気泳動法	免疫電気泳動法	徳大路
17 18	電気泳動法	免疫電気泳動法	徳大路
19 20	実技試験		徳大路
21	終講試験		徳大路
22 23	電気泳動法	免疫電気泳動法 臨床データ確認	徳大路

評価基準	終講試験 90% レポート 10% レポート評価： レポート内容について評価を行う。
授業外の学習方法	
その他	

## 輸血・移植検査学Ⅱ（実習）

科目担当者名	前原 光江、徳大路 洋史
科目概要	2年・後期（1単位・45時間・必修）
授業形態	講義 20% ・ 実習 80%
実務経験	実務経験あり (病院臨床検査科に従事し、輸血検査に関わる。技師長を経験し、検査全般の管理に関わる。認定輸血検査技師。輸血・移植検査の実際について教授する。)
教科書	最新臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)・輸血・移植検査技術教本(丸善出版)
参考文献・資料	実習用テキスト

教育目的概要	輸血・移植検査法の原理と結果を理解し考察するとともに検査手技を習得する。
学習目標(到達目標)	検査法の原理を理解し、検査手技を習得する。結果を考察しレポートにまとめることが出来る。臨地実習に対応できる技術を身につける。

回	項目	授業内容	担当・備考
1 2	基礎実習	検体採取、血球浮遊液の作成、血球保存液の作成	前原、徳大路
3 4	A B O式血液型 R h式血液型	試験管法、スライド法、カラム凝集法	前原、徳大路
5 6	唾液検査	抗A、抗B、抗H凝集抑制試験	前原、徳大路
7 8	A B O亜型検査 R h D陰性確認試験	レクチンとの反応、被凝集価測定 D陰性確認試験	前原、徳大路
9 10	不規則抗体スクリーニング	試験管法（生食法、ブロメリン法）、カラム凝集法、消去法	前原、徳大路
11 12	不規則抗体同定	試験管法（生食法、間接抗グロブリン法）消去法	前原、徳大路
13 14	交差適合試験	試験管法（生食法、間接抗グロブリン法、ブロメリン法）	前原、徳大路
15 16	新生児溶血性疾患検査 H L Aタイピング検査	直接抗グロブリン試験、抗体解離試験、解離液の同定 P C R - S S P法	前原、徳大路
17 18	新生児溶血性疾患検査 H L Aタイピング検査	直接抗グロブリン試験、抗体解離試験、解離液の同定 P C R - S S P法	前原、徳大路
19 20	実技試験	血液型検査と交差適合試験	前原、徳大路
21	終講試験		前原
22 23	A B O式血液型 R h式血液型 交差適合試験	確認実習テスト	徳大路

評価基準	レポート提出と実技試験で筆記試験受験資格を取得 終講試験 100% 実習態度についても参考にする
授業外の学習方法	実習テキストの課題を予習する。実習レポートを作成し提出する。
その他	



## 微生物検査学Ⅱ(実習)

科目担当者名	高橋 俊、飯塚 桂子
科目概要	2年・後期(1単位・45時間・必修)
授業形態	講義 20% ・ 実習 80%
実務経験	実務経験あり (病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床との関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。)
教科書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)
参考文献・資料	

教育目的 概要	的確な感染症の診断と治療を実施するため微生物の病原性や同定法、治療抗菌薬について理解し感染症の原因菌を的確に判断し治療に有効な抗菌薬を示すことができるようになる。また院内感染予防対策を実施するため耐性菌、感染経路などを理解し感染対策の中心的な役割を果たすようになる。
学習目標 (到達目標)	微生物と惹起する感染症を列挙することができる。 微生物の同定法に必要な項目を述べ、結果を判定することができる。 微生物の形態学的特徴、生物学的性状を述べるすることができる。 抗菌薬の分類と代表的抗菌薬がを述べられ、作用機序についても説明できる。 耐性菌を判定することができる。

1 2	真菌の同定法	真菌(酵母型)、真菌(糸状菌)	高橋、飯塚
3 4	薬剤感受性検査	寒天平板拡散法(CLSI法)とβ-ラクタマーゼの検査法、微量液体希釈法(CLSI法)	高橋、飯塚
5 6	薬剤感受性検査	MICとMBCの測定法・試験管法(日本化学療法学会)	高橋、飯塚
7 8	検査材料別検査法	尿検査法	高橋、飯塚
9 10	検査材料別検査法	咽頭・鼻咽腔粘液検査法、喀痰検査法	高橋、飯塚
11 12	検査材料別検査法	糞便検査法	高橋、飯塚
13 14	検査材料別検査法	血液、髄液、胸水、腹水、関節液検査法	高橋、飯塚
15 16	検査材料別検査法	抗酸菌の検査法、結核菌の薬剤感受性試験法	高橋、飯塚
17 18	検査材料別検査法	膿、分泌液、体腔液検査法、性感染症の検査法	高橋、飯塚
19 20	実習試験		高橋、飯塚
21	終講試験		高橋、飯塚
22 23	感染対策		高橋、飯塚

評価基準	終講試験 90% レポート 10% レポート評価：レポート内容について評価を行う。
授業外の 学習方法	
その他	